

祈りは香のように 詩篇 141:1-10

2023. 4. 30、丘の上 NO. 698
春日部福音自由教会 山田豊

本詩篇は、2節のことばから、夕べの礼拝に用いられたようだとの解説がありました。たしかに、お香をたきながら本篇を静かに朗読し、一日の感謝をささげて床に就けば、ぐっすりと休めるような気がいたします。

1－2節で、作者は、神を呼び求めています。それは祈りですが、神様の助けが速やかになることを願っています。具合が悪くなった人を助けるために救急車を呼んで、その到着を待っているような心境でしょうか。

3－5節には、私を守ってくださいとの祈りが歌われています。よく、口は禍の元と言われます。ずっと押し黙ってしまわれるのは困ったものですが、しゃべりすぎると罪をおかすこととなります。ヤコブ書には、舌をコントロールすることの大切さが、書かれています(ヤコブ 3:6-10)。この世にはいろいろな誘惑が満ちていますが、愛をもって訓戒する人のことばには、素直に従いたいものです。

6－10には、以前も触れたように、悪人が自業自得に陥るさまが描かれ、自分を守ってくださいとの祈りが、ふたたびささげられています。

旧約の時代、幕屋やその後の神殿では、人間の罪を負わせた動物が捧げられていました。やがて香をたくようになり、それらの煙は上に上がっていきます。それは、人の祈りが神の前に立ち上ることの象徴でもあったと思います。その時の香りというか匂いは、BBQに近いものであったかもしれません。

しかし新約の時代となり、イエスキリストが私たちの罪を負ってかつての犠牲の動物のように捧げられました。それが、十字架での死です。そのことによって、人の罪は赦され、汚れは取り去られました。もはや動物のいけにえを捧げる必要はないのです。それは、芳ばしい香りにたとえられます。そして、主イエスと交わりを持つものとされたキリスト者は、キリストの良き香りを放つ者とされるのです。

2コリント 2:15-16 私たちは、救われる人々の中でも、滅びる人々の中でも、神に献げられた芳しいキリストの香りなのです。

花を弄すれば香衣に満つ、という禅語があります。良い友と交わり、良い環境に身を置くことで、良い品性を身に着けるようになるという言葉でしょう。「朱に交われば赤くなる」と同じ意味です。洒落ではありませんが、「主に交われば祈る者となる」そんな日々を送りたいものです。

引用聖句

出エ 29:38-41 祭壇の上に献げるべき物は次のとおりである。毎日絶やすことなく、一歳の雄の子羊二匹。39 朝、一匹の雄の子羊を献げ、夕暮れに、もう一匹の雄の子羊を献げる。40 一匹の雄の子羊には、上質のオリーブ油四分の一ヒンを混ぜた最良の小麦粉十分の一エパと、また注ぎのささげ物としてぶどう酒四分の一ヒンが添えられる。41 もう一匹の雄の子羊は夕暮れに献げなければならない。これには、朝の穀物のささげ物や注ぎのささげ物を同じく添えて、献げなければならない。それは芳ばしい香りのためであり、【主】への食物のささげ物である。

民数 28:3-8 彼らに言え。これがあなたがたが【主】に献げる食物のささげ物である。傷のない一歳の雄の子羊を、毎日二匹、常供の全焼のささげ物として。4 一方の子羊を朝献げ、もう一方の子羊を夕暮れに献げなければならない。5 穀物のささげ物として、上質のオリーブ油四分の一ヒンを混ぜた小麦粉十分の一エパ。6 これはシナイ山で定められた、常供の全焼のささげ物であり、【主】への食物のささげ物、芳ばしい香りである。7 それに添える注ぎのささげ物は、子羊一匹につき四分の一ヒンとする。聖所で、【主】への注ぎのささげ物として強い酒を注ぎなさい。8 もう一方の子羊は夕暮れに献げなければならない。朝の穀物のささげ物、および、それに添える注ぎのささげ物と同じものを、これに添えて献げなければならない。これは【主】への食物のささげ物、芳ばしい香りである。

ヤコブ 3:6-10 馬を御するためには、その口にくつわをはめれば、馬のからだ全体を思いどおりに動かすことができます。4 また船を見なさい。あのよう大きくて、強風を受けていても、ごく小さい舵によって、舵を取る人の思いどおりのところへ導かれます。5 同じように、舌も小さな器官ですが、大きなことを言って自慢します。見なさい。あのよう小さな火が、あのよう大きな森を燃やします。6 舌は火です。不義の世界です。舌は私たちの諸器官の中にあつてからだ全体を汚し、人生の車輪を燃やして、ゲヘナの火によって焼かれます。7 どのような種類の獣も鳥も、這うものも海の生き物も、人類によって制することができます。8 しかし、舌を制することができる人は、だれもいません。舌は休むことのない悪であり、死の毒で満ちています。9 私たちは、舌で、主であり父である方をほめたたえ、同じ舌で、神の似姿に造られた人間を呪います。10 同じ口から賛美と呪いが出て来るのです。私の兄弟たち、そのようなことが、あつてはなりません。

エペソ 6:4 父たちよ。自分の子どもたちを怒らせてはいけません。むしろ、主の教育と訓戒によって育てなさい。

民数 16:32-33 地は口を開けて、彼らとその家族、またコラに属するすべての者と、すべての所有物を呑み込んだ。33 彼らと彼らに属する者はみな、生きたまま、よみに下った。地は彼らを包み、彼らは集会の中から滅び失せた。

詩篇 11:1 【主】に私は身を避ける。どうしてあなたがたは私のたましいに言うのか。「鳥のように自分の山に飛んで行け。

ヨハネ 17:11 わたしはもう世になくなります。彼らは世にいますが、わたしはあなたのもとに参ります。聖なる父よ、わたしに下さったあなたの御名によって、彼らをお守りください。わたしたちと同じように、彼らが一つになるためです。

ヘブル 7:27 イエスは、ほかの大祭司たちのように、まず自分の罪のために、次に民の罪のために、毎日いけにえを献げる必要はありません。イエスは自分自身を献げ、ただ一度でそのことを成し遂げられたからです。

9:12 また、雄やぎと子牛の血によってではなく、ご自分の血によって、ただ一度だけ聖所に入り、永遠の贖いを成し遂げられました。

9:26 もし同じだとしたら、世界の基が据えられたときから、何度も苦難を受けなければならなかったでしょう。しかし今、キリストはただ一度だけ、世々の終わりに、ご自分をいけにえとして罪を取り除くために現れてくださいました。

10:10 このみこころにしたがって、イエス・キリストのからだは、ただ一度だけ献げられたことにより、私たちは聖なるものとされています。

ローマ 6:10 なぜなら、キリストが死なれたのは、ただ一度罪に対して死なれたのであり、キリストが生きておられるのは、神に対して生きておられるのだからです。

2コリント 2:15-16 私たちは、救われる人々の中でも、滅びる人々の中でも、神に献げられた芳しいキリストの香りなのです。16 滅びる人々にとっては、死から出て死に至らせる香りであり、救われる人々にとっては、いのちから出ていのちに至らせる香りです。このような務めにふさわしい人は、いったいどれでしょうか。

ピリピ 4:18 私はすべての物を受けて、満ちあふれています。エパフロデイトからあなたがたの贈り物を受け取って、満ち足りています。それは芳ばしい香りであって、神が喜んで受けてくださるささげ物です。

エペソ 5:2 また、愛のうちに歩みなさい。キリストも私たちを愛して、私たちのために、ご自分を神へのささげ物、またいけにえとし、芳ばしい香りを献げてくださいました。

黙示 5:8 巻物を受け取ったとき、四つの生き物と二十四人の長老たちは子羊の前にひれ伏した。彼らはそれぞれ、豎琴と、香に満ちた金の鉢を持っていた。香は聖徒たちの祈りであった。

黙示 8:4-5 香の煙は、聖徒たちの祈りとともに、御使いの手から神の御前に立ち上った。5 それから御使いは、その香炉を取り、それを祭壇の火で満たしてか

ら地に投げつけた。すると、雷鳴と声のとどろき、稲妻がひらめき、地震が起こった。

- 1 サムエル 12:23 私もまた、あなたがたのために祈るのをやめ、【主】の前に罪ある者となることなど、とてもできない。私はあなたがたに、良い正しい道を教えよう。

掬水月在手 水を掬すれば月 手に在り
弄花香满衣 花を弄すれば香は衣に満つ

(全唐詩) 于良史の詩「春山の夜月」の句の一節。

秋の夜、川面に両手を入れて、その水をすくって見ると、そこに月が映る。春の野辺、花をかざし弄べば衣服いっぱい花の香りがしみこむ。秋と春の対句